制御不可能な自由　　長崎県立佐世保北高等学校　吉田　悠輔

コロナ禍の中で、「個人の自由」については多くの議論がなされてきた。ワクチン反対派、コロナは風邪派、マスク不必要派…あげるときりがないが、「個人の自由」の言葉の元に様々な主張が行われてきた。政府や報道もそのような主張に気を使いながら政策を発表し、ニュース番組を作ってきた。確かに、個人の自由というのは民主主義国家の最大の特徴であり利点であるから、それが尊重されるのは当然のことである。しかしながら、近年「個人の自由」が行き過ぎているように思われる。そしてその行き過ぎは、従来の「制御可能な自由」を「制御不可能な自由」へと変化させ始めているのである。制御可能な自由は人々に幸福を与え互いを尊重する社会を作り上げることに必要であるが、制御不可能な自由は先祖が作り上げてきた社会の秩序を破壊してしまう可能性さえある。コロナ禍の中で、ワクチン反対派によるデモが行なわれることは社会が人々を制御できなくなってしまっていることを示している。「個人の自由」とは周囲に迷惑をかけない範囲でのみ許されるのであってその一線を越えてしまった自由は社会によって取り締まられなければならないのだ。

ではなぜ人々の自由は「制御可能な自由」から「制御不可能な自由」へと変化してしまったのだろうか。それは、近年のグローバル化を良しとする風潮が大きく関係していると思われる。確かにグローバル化はこれからの人類の持続的な発展や、世界平和のために必要不可欠な要素である。しかしながら、同時にグローバル化は世界の各国の異なる「自由」に対する価値観を混ぜるという危険な行為でもあるのだ。今まで私たちの社会における自由が制御可能であったのは人々の価値観がある程度均一化されており、社会の規範を逸脱する自由は「社会の目」によって国民が互いに監視する役割を担っていたからである。しかし、グローバル化によって均一だった価値観がかき乱され、「何が正しいのか」「どこまで許されるのか」という基準が曖昧になってしまって、今までのような強力な「社会の目」が機能しなくなってしまっている。そのために、社会は十分に行き過ぎた自由を取り締まれなくなってしまっているのだ。

では、この問題を私たちはどのように解決すればよいのだろうか。グローバル化は人類のこれからの発展のために必要不可欠なことであるからその流れを止めるわけにもいかない。また、民主主義を放棄することも今の世界では賢明な選択だとは言えない。ここで、私が提案したいのは「地球間での自由の価値観の共有」である。すでにかき乱され、混じりあっている価値観はもはや分離不可能である。しかし、そこに新たな価値観を注ぎ込み混じりあった価値観に共通の要素を与え、地球間での「社会の目」を再構築すればグローバル化のさらなる推進と、制御可能な自由への回復を同時に行うことができる。そして、地球間で共有された自由の価値観はそれぞれの国でもともと普及していたそれとは異なり、他の社会から干渉を受けるということが全く無くとても強固である。

とても曖昧な現代社会で私たちがこれから進めていくべきことは、世界間での積極的な交流なのではないだろうか。(1304 字)